

## 令和6年度 第1回

# 学校部活動の地域連携・地域移行に関する連絡協議会協議要旨

日 時：令和6年8月1日（木）午後3時から午後4時30分まで

場 所：東京都庁第二本庁舎 31階 特別会議室 21

## 委員

東京都教育庁指導部部活動振興担当課長  
東京都生活文化スポーツ局総務部企画担当課長  
東京都生活文化スポーツ局スポーツ総合推進部団体調整担当課長  
東京都生活文化スポーツ局スポーツ総合推進部パラスポーツ課長  
東京都生活文化スポーツ局文化振興部文化政策担当課長  
東京都教育庁総務部企画担当課長  
東京都教育庁指導部主任指導主事（部活動振興担当）  
東京都教育庁指導部指導企画課統括指導主事  
東京都教育庁指導部指導企画課統括指導主事  
公益財団法人東京都体育協会事業部長  
一般社団法人東京都スポーツ推進委員協議会会長  
公益財団法人日本レクリエーション協会評議員  
総合型地域スポーツクラブ東京都協議会副幹事長  
公益社団法人東京都障害者スポーツ協会スポーツ振興部事業推進課長  
東京都吹奏楽連盟理事長  
公益社団法人日本芸能実演家団体協議会参与  
公益社団法人日本芸能実演家団体協議会実演芸術振興部担当部長  
東京都中学校体育連盟会長（足立区立江北桜中学校長）  
東京都中学校文化連盟会長（大田区立雪谷中学校長）

勝山 朗  
芳賀 敦  
深谷 祐紀  
松坂 智仁  
桜井 健士  
木村 優也  
大村 賢治  
澁谷 創平  
齊藤 博之  
大島 由晋  
新島 二三彦  
丸山 正  
矢子 達哉  
佐々木 ゆみ  
齊藤 厚子  
大和 滋  
松江 史乃  
金子 哲朗  
柳 歆子

## 事務局

東京都生活文化スポーツ局総務部企画計理課課長代理（企画担当）  
東京都生活文化スポーツ局スポーツ総合推進部スポーツ課課長代理（地域スポーツ担当）  
東京都生活文化スポーツ局文化振興部企画調整課課長代理（文化政策担当）  
東京都教育庁総務部教育政策課課長代理（団体調整担当）  
東京都教育庁総務部教育政策課企画担当主任  
東京都教育庁指導部指導企画課課長代理（体育・健康教育担当）  
東京都教育庁指導部指導企画課指導主事  
東京都教育庁指導部指導企画課指導主事

松本 勝也  
若菜 大介  
山内 みどり  
中沢 沙織  
佐々木 朋哉  
信 雅之  
濱島 浩二  
谷川 圭

## 趣 旨 説 明

【主任指導主事】 (次のことについて説明)

- ・ 連絡協議会の設置目的、所掌事項及び構成員
- ・ 部活動の地域連携・地域移行に関する経緯について

## 概 要 説 明

【事務局】 (次のことについて説明)

- ・ 「学校部活動及び地域クラブ活動に関する総合的なガイドライン」について
- ・ 「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画（令和6年3月改訂版）」について
- ・ 「未来へ つなぐ 部活動改革 リーフレット」の改定について
- ・ 「部活動改革シンポジウム」の開催について
- ・ 区市町村が取り組んでいる事例紹介について（地域の団体を活用した事例）

## 情 報 交 換

「東京の資源を活用した青少年のスポーツ・文化芸術活動について」

【委員（代理）】 東京都スポーツ協会では昨年度、都内の地域スポーツクラブのスタッフを対象に、学校部活動の地域連携・地域移行の研修会を開催した。また、地域スポーツクラブが集まって行うスポーツ交流会で、学校部活動に関するコーナーを設置し、学識経験者による講演や、学校部活動に取り入れやすい種目の紹介などを行った。

今年度は、総合型地域スポーツクラブ東京都協議会の事務局として、区市町村の教育委員会やスポーツ主管課が、総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度に登録している都内の地域スポーツクラブに指導者の紹介を依頼する際の事務フローを定め、その手続についてホームページで案内を開始した。

【委員】 スポーツ推進委員協議会は、子供から高齢者までスポーツに親しめるように、東京都内の1490名程のスポーツ推進委員の資質・向上のための研修等を開催している。パラスポーツ、ユニバーサルスポーツ等の、障害の有無にかかわらず、子供から高齢者まで、スポーツの裾野を広げていくという活動が中心である。中学生が、この環境に入ってくると、スポーツを通じた共生社会の実現や、スポーツを通じた新しいコミュニティの創造につながり、教育的な意義も高いと考えている。

一方で、スポーツ推進委員が、平日に職業をもちながら、平日の放課後に安定的に指導者として入っていくのは、難しい面がある。また、指導者よりは、コーディネーターの可能性があると考えている。

【委員】 日本レクリエーション協会は、生涯スポーツ社会を作っていく取組を進めている。大人のスポーツ実施率が伸びない課題があるが、中学校の部活動への参加・加入も減少している。中学校の部活動を、チャンピオンシップのスポーツだけではなく、スポーツや運動に苦手意識がある生徒も参加できるように、スポーツ庁の実証事業で、レクリエーション部・スポーツレクリエーション部の取組を行った。生徒をはじめ、校長先生、顧問からも、是非続けてほしいと好評であった。

最近では、多くの大学で、レクリエーションの授業を行っている。都内の中学校でも普及してきている。今後も、誰でも楽しめるスポーツの推進を図っていきたい。

【委員】 地域スポーツクラブは、地域の多くの方が関わっている団体であり、部活動だけで見ると、小さい話になってしまう。地域の課題と部活動の課題を一緒に考えていくと、解決できる可能性がある。

現在、私は様々な活動や場を通じて、指導者の確保に向けて、大学、プロスポーツチーム、各種スポーツ団体等のネットワークを作っている。指導者を確保するために、雇用の面から、地域で一日をかけて仕事をできる環境を作ることや、地域で雇用することも考えられる。また、部活動という中学生だけではなく、世代を超えた地域交流で、様々な世代の方と交わる機会を作ることが大切である。学校の活動を

地域の方に知ってもらふ機会となるとともに、地域の方が部活動を応援する機会となる。そして、中学生が小学生と一緒に活動することは、子供が伸びるきっかけとなる。高齢者も一緒に身体を動かす環境を作ってあげることによって、地域のコミュニティを作れるきっかけとなる。そのためには、コーディネーターができる団体を区市町村に一つ作り、その中で各学校のコーディネーターを置いて、地域と学校をうまく結び付ける人材の養成が大切となる。

**【委員】** 日本芸能実演家団体協議会は、演劇、能楽、日本舞踊、落語などの伝統芸能関係の68団体が集まって文化の振興を目的に活動をしている。プロの実演家は、東京に集中しており、地域の資源は多く、教えることに適した方と、舞台を中心にやっている方など様々いる。これまで学校で実施してきていないような部分があったが、キッズ伝統芸能体験事業などで、各団体が子供たちに教えるという経験を積み重ねてきている。

地域連携として、地域の方が学校に行くということも可能ですし、移行として、施設や稽古場があるため、条件を整えば、様々な演目について対応できる可能性はある。都内の公開可能な施設や指導者のリストを作って、協会などの統括している団体を経由して紹介する流れであれば、可能性はある。

**【委員】** キッズ伝統芸能体験事業は、小学生から高校生までの生徒を募り、能楽、長唄、三曲、日本舞踊の実演家の皆様に、半年ほどのお稽古をしていただき、日本の伝統芸能に触れ、その芸を身に付け、躰を学び、最終的には発表会をしている。その他、都内の小学校から高校までを対象に、学校を巡る伝統文化芸能体験授業を応募制で実施しており、毎年多数の応募をいただいている。

部活動の地域連携・地域移行実施に当たっては、統括団体や実演家の皆さんと、学校とを結ぶコーディネーターができる団体を設けることが重要である。また、紹介して終わりではなく、継続的に実施していくうえで、出欠管理や日程調整などを委ねていくとスムーズに進むのではないかと。また、活動中に生徒が事故にあったり、けがをしたりした際、どこが対応するのか、曖昧にならないよう明確にする必要がある。

**【委員】** 障害者スポーツ協会は、障害の有無に関わらず参加できる地域交流型のイベントの開催している。また、東京パラくるというパラリンピアンなど東京にゆかりのあるアスリート、競技団体、技師器具士などのサポートスタッフ百名程が講師として登録しており、学校での体験会や研修会、職員研修などで活用していただいている。障害のある中学生には、スポーツの入門教室からアスリートの育成教室まで様々なレベルでの教室を実施している。選手の発掘事業にも力を入れている。

これらの活動を支える人材養成・人材確保について、日本パラスポーツ協会では、公認の指導者研修会を開催し、指導員を養成している。都の協会も初級・中級のパラスポーツ指導者の研修会に携わり、年間300人以上の指導者の育成をしている。東京都と共催でボランティアの人材システム「障スポ&サポート（通称：S&S）」については、パラスポーツ指導員の方や、2020大会時に活躍されたフィールドキャストや、シティーキャストの方々など8700名程が登録している。また、パラスポーツ指導員の中でも、活動地を東京都と書かれた方は、東京都パラスポーツ指導者協議会に登録され、会員が3300人を超えている。障害者スポーツ協会は、東京都パラスポーツ指導者協議会とも連携し様々な事業を実施している。

**【委員】** 中学校体育連盟は、子供たちの目標となる夏の総合大会、関東大会、そして8月の終わりに全国大会の運営をしている。

少子化で、学校で生徒が足りない状況があり、まずは2校の学校が合同の形式で大会に参加できるようにした。その後、3校、4校と幅を広くして、大会に参加できるようにした。そして、昨年度から、地域スポーツクラブや拠点校方式の部活動も大会に参加できるように要項を改訂した。また、行政主体の地域クラブ、また民間が運営している地域クラブを整理して、今年度も要項を改訂し、子供たちの参加の機会が失われないようにしている。

今年度は、民間の地域クラブから194団体、1376名が参加している。昨年度から、約30団体、約360名増加している。

現状で、1日2000円から3000円の謝礼で大会を運営している。地域クラブ等の一般の方にも大会運営に携わってもらうようになると、財源の確保が厳しくなっている。

**【委員】** 東京都中学校文化連盟は、部活動や地域クラブなど、今後も様々な形になっていっても、子供たちが大会に参加して、達成感を得られるような場を確保していくのが、大きな役割と思っている。

中学校総合文化祭については、伝統芸能などは元々地域で行っているため、学校単位の部活動に限っていない。ただ、分野によっては、推薦校を選出・コンクールなどで地域クラブ等を認めていくよう規約が

改正されているところである。

令和7年度中学校総合文化祭については、部活動の地域移行に取り組んでいる静岡県掛川市のNPOに、大会の事務局として、大会運営に関わっていただく試みを想定している。次の令和8年度は、東京開催となるため、令和7年度の課題も踏まえつつ、東京大会に取り入れていけるか検討していきたい。

**【委員】** 東京都吹奏楽連盟は、全日本の吹奏楽コンクール等につながる大会の運営や、東京都民の皆様に広く吹奏楽を楽しんでいただくということを目標にコンサート等を行っている。

中学生の吹奏楽コンクールでは、以前から学校単位の合同バンドの参加を可としており、今年も1団体がコンクールに出演している。また、地域バンドの登録について相談が2件あり、今年度中に加盟する可能性がある。

指導者については、東京の利点として、音楽大学や音楽学科のある大学が多く、教育庁から大学にも働きかけをいただいているおかげもあり、外部の指導者が増えてきている。また、指導だけではなく、引率も可となっているため、引率や指揮も担われていることが増えた。

外部の指導者をお願いした時に、学校の顧問教員と連携するところに課題がある。これまで吹奏楽部の顧問として指導していた退職教員が外部の指導者として携わっている場合は、スムーズに活動できていることが多い。

## 連 絡

**【主任指導主事】** 本連絡協議会は、本日含めて、今年度、全部で3回を予定している。次回、第2回は、令和6年11月に開催を予定している。詳細については、後日、連絡する。

本日の配布資料及び協議の要旨は、後日、東京都教育委員会のホームページに掲載する予定である。部活動の地域連携・地域移行について、各委員が報道機関等から問合せを受けた場合は、事務局が対応する旨、御回答いただくとともに、速やかに事務局に御一報いただく。事務局が対応する。